

イエスは 主なり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 171号

「目を覚まして祈っていなさい」

(マルコ 14 : 38)

佐々木 雄次



主イエスは、ゲツセマネで、ペトロ、ヤコブ、ヨハネの三人を前にして、ひどく恐れてもだえ始め、「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、目を覚ましていなさい」と言われました。それから、祈り始められたのですが、三度、祈りを中断して弟子たちのところに戻って来られ、そのたびに「目を覚まして祈っていなさい」と言われました。御自身は血のような汗を滴らせて祈っておられたのに、その祈りを中断して戻って来られたのです。「目を覚まして祈っていなさい」、そのことをどうしても弟子たちに言わなければならないと思われたのです。

人は目を覚ましていなければ、その時の状況を正しく認識できないし、状況にふさわしい行動をとることもできません。間もなく弟子たちは肉体の目では主イエスを見ることができなくなります。それに耐え、道を誤らずに進んでいくためには、目を覚まして祈っているしかないのです。

しかし、弟子たちはこの急迫した状況を理解できず、眠ってしまいました。戻って来られた主に三度起こされ、起こされるたびに「イエスにどう言えばよいのか、分か」りませんでした。彼らも情けないと思ったでしょう。何とか目を覚ましていようと思ったでしょう。しかし、できなかったのです。三度目に戻って来られた主は、「あなたがたはまだ眠っている。休んでいる。もうこれでいい」と言われました。「もうこれでいい」というお言葉は「もうこれでも大丈夫である」という慰めに満ちたお言葉であると思います。

わたしたちはそう言われた主イエス・キリストから離れてはなりません。なんとしても主の近くにおりましょう。そして、まことに凶々しいことですが、主に起こしていただき、目を覚ましていただきます。マルチン・ルターの妻カタリーナは、「私は着物にくっつくイガのように、私の主イエス・キリストにくっついて離れない」と言ったそうです。「キリストにくっつくイガのように」というのは、「ひたすらキリストにすがりつく」ということでしょう。着物にくっついたイガはキリストと共にいることができるのです。「主は、わたしたちのために死なれましたが、それは、わたしたちが、目覚めていても眠っていても、主と共に生きるようになるためです。」(Iテサ5:10)

(函館栄光キリスト教会牧師)

想 霊



聖霊の啓導と充滿

(ロマ8・14)

日本基督教団東京新生教会協力牧師

横山 義孝

キリスト者の最大の特権の一つは地上の生涯において聖霊の導きとその充滿に与ることです。キリスト者の歩みには様々な困難や誘惑、苦しみが伴います。その一つ一つを克服しなければ人生に喜びはなく、また永遠の栄光のみ国へ迎えられることもできません。どうしたら勝利と喜びのキリスト者生涯を歩むことができるのでしょうか。その秘訣は聖霊による導きを頂いて、誤りのない勝利の信仰生活を全うすることにあります。どうしたら聖霊の啓導を豊かに頂くことができるのでしょうか。それを共にまなびましょう。

聖霊の啓導を受ける条件

第一は私たちの魂が悔い改めと信仰によって清められたものであることです。ペンテコステの日使徒

ペトロは、悔い改めて洗礼を受けなさい。そうすれば聖霊の賜物を受けると勧めました(使徒2の38)。またヘブライの記者も「全ての人のと平和をまた聖なる生活を追い求めなさい。聖なる生活を抜きにして誰も主を見ることはできません」(ヘブライ12の14)と言っています。

第二は主の約束への信頼と渴望です。聖書はすべて約束の書です。なかならず聖霊に関して「[1]証しの力を下さるとの約束(使徒1の8) [2]助け主(聖霊、弁護者)を遣わすとの約束(ヨハネ14の16) [3]求めるものに聖霊を下さるとの約束(使徒1の4、5。ルカ11の13)等があります。神様は愛と真実のお方ですから切に求める者には間違いなく聖霊の賜物を下さるのです。求めない者に無意味に与えることはなさいません。故に主は「昇天にあたり、エルサレムを離れず、父の約束を待ちなさいと仰せられたのです(使徒1の4) 第三に大切なことは御言葉への聴従と実践です。清められた心で熱心に祈る者には、必要な聖書のみ言葉を与え、また魂の深みに何らかのみ声か、み旨を知らせてください。それは聖なる神の子とされているからです(ロマ8の14) しかしそのみ声はささやかな細い声であるかもしれません。そこで大切なことはその神の御声に耳傾

け、そのみ旨を聞き分けることです。「今日神の声を聴くなら心を頑なにしてはならない」(ヘブライ3の7・8) また「神の聖霊を悲しませてはいけません」(エフエソ4の10)とあります。聖霊の導きのささやきを感じたならば、それを無頓着にやりすごしてしまわないで、霊の耳をすませて更に深い傾聴の心で主に捧げることです。(サムエル上3の10)

そして更に大切なことは、頂いた御言葉を実践することです。主イエスは山上の説教の結びにおいて「わたしのこれらの言葉を聞いて行くものは皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川が溢れ風が吹いてその家を襲っても倒れなかった。岩を土台としていたからである」(マタイ7・24・25)と仰せられました。ヤコブも「信仰も行いを伴わなければそれだけでは死んだものだ」(ヤコブ2・17)と言っています。Eスタンレージョンズ師は「アシュラムとは何か」というパンフレットで次のように言っています。「イエスは主である」とは言葉が肉体になること(ヨハネ1の14)であると言い、キリスト教の中心はキリストであり、キリスト教はキリストである。しかし、中心の中心は、キリストが肉体となられたことである。われ

らはグループとして肉となる御国の言でなければならぬ。したがって回答を見出そうとするのでなく、答えになろうとし神の国のひな型(縮図)になろうとし、新秩序のカメオ(浮彫)となるのであると。主イエス様がカナの婚宴において水を葡萄酒に変えられた時、主は召使達に「水かめに水を一杯入れなさい」と言われ、更に「さあ汲んで宴会の世話役の所へもっていきなさい」と言われた時、召使たちは何の疑問も持たず、言われた通り実行しました。世話役は葡萄酒に変わった水の味見をして、その葡萄酒の美味しさに驚き花婿を呼んで絶賛した(ヨハネ2の1・11)事がしるされています。清い魂で御言葉を受け入れ、聞き従ってこれを実践するとき、聖霊の啓導は結実し福音の恵みは魂に充滿するのです。「聞き従って魂に命をえる」(イザヤ55の3)ものとされましょう。

証 立 「主の執り成しに感謝」 日本基督教団西川口教会

皆川 時男

13年2月17日の第20回東京新生教会アシュラムに参加を許され、立証の奉仕をさせて頂き、又、愛兄弟との交わりの機会を頂きま

したことを、心より感謝申し上げます。

若い時、自由気儘な生き方を選び、罪深い生活をしていましたが、退職後、主イエス・キリストの父なる神様に「神様、罪人の私を憐れんでください」(ルカ18・3)と、主イエスの十字架を見上げつつ、今生かされていることへの横山先生(以下・Y先生)のとりなしの祈りを感じ謝しております。

さて、私は'43年6月17日川口市安行に生まれ、多くの神社仏閣には生まれ成長しました。'66年4月川口市役所に入り、そこで地方公務員として忠実に、誠実に、退職の日まで勤めました。

Y先生との出会いは、昭和40年頃、川口市青少年育成活動の一環として保護司をされていた先生とBBS活動(保護観察中の青少年と友達になって共に歩む)で2件受け持った私へのアドバイスをいただく関係からでした。

牧師をされていた西川口教会にポーナス時に献金を持参し、ご在宅の折は、お祈りをいただき、また先生より「忠実な僕だ。よくやっただ…」(マタイ25・21)の葉をもいただきました。その上、退職の日まで大切に持ち続けました。'70年10月8日未婚者である私どもの結婚式にお招きし、「いづくしみ深

い」の賛美歌を歌っていたいただき会場は光が指した様に明るく披露宴会場となりました。いろいろな先生のご愛を受けるにも拘わらず頑迷な私は主に従わず偶像の世界を走っておりました。それゆえ、いろいろな苦痛や艱難が与えられ、'00年6月心筋梗塞、'02年5月胃腸(全摘手術)、'02年8月二度目の心臓手術を受け、一本の左冠動脈の働きで、今生かされています。

退職後は洗礼をと心に思っ、'04年2月から教会に行き始め、同年12月19日、4代目の金田佐久子牧師より洗礼を受けました。

今、現在、西川口教会の社会部の仕事を担当し、'11年3月11日発生した東日本震災救援募金の働きや、'12年3月から始めた毎月1回のラジウム卵の頒布を通して東北の地の復興を「願いと祈り」をもって歩ませていただいております。

主は御自身の定められた時に助けを送ってくださいました。私は、この方から何万回もの助けを受けることになりました。助けなど来るような時にも、助けは来ませんでした。それはイエス様が信者、未婚者を問わずとりなしの祈りをささげてくださいるからです。心より感謝します。アーメン

第44回城北アシラム報告

池の上教会 荒井 光夫



第44回城北アシラム 池の上キリスト教会 2013.2.11

ユラム全体の説明と注意が語られ、続く開心の時は、主がエレミヤに語られたごとく、粘土が陶器師の手の中にあるように、私たちが新しくすることのできる主の前に心を開くようお勧めがあり、皆さんからニードの発表がありました。

その後、九つの祈りの細胞に分かれ、お互いにニードを分かち合い祈り合いました。

主の前に重荷をおろして晴れやかなになった一同がチャペルに集い、記念写真撮った後は、コイノニアホールで美味しい食事を頂きながら親しい交わりの時を過ごしました。

午後の静聴の時は、山口紀子師(更生)により、今回の主題「わたしにつながっていないさ」の聖書箇所、ヨハネの福音書十五章を黙読した後、皆さんから心に示された恵みのみ言葉の発表がありました。

続く福音の時は三木勝喜兄(池の上)の司会で始まり、席上献金がさげられた後、千代崎備道師(池の上)より「私を見すてない神」(詩篇五十一篇十、十二節)と題してメッセージを頂きました。罪を悔い改めて主に立ち返る時、主はきよい心とゆるがない霊を与えてくださること、主の前に素直になる時、喜びが生まれること、主にしがみつ(猿)

信仰ではなく、主に委ねる(猫)信仰に生きることなどが語られました。

二〇一三年二月十一日(月)、池の上キリスト教会を会場として城北アシラムが開催されました。今回は求道者が九名参加され、全体で七十八名の参加がありました。

最初のオリエンテーションでは、杉本和生師(新宿西)からアシ

た。

続く二回目の祈りの細胞では、茶葉を頂きながらニードに対して導かれたことやみ言葉を分かち合い祈り合いました。

最後の充満の時は、横山義孝師（東京新生）より、感謝（「テサロニケ五章十六〜十八節）についてお勧めがあり、皆さんからその日に頂いた恵みや決意の発表がありました。そして、一同が輪になって賛美し、「イエスは主なり」の唱和と祈りで終わりました。

今回は求道者の方々が出席され、より幅のある新鮮な集会であったとの感想もあり感謝なアシラムとなりました。

第50回関東アシラム報告

安藤 脩

大きな節目となる第50回関東アシラムは、「12年9月17日（月）〜19日（水）」に、山崎製パン箱根山荘で開催されました。

準備の段階から「50周年記念大会」と位置づけ、節目に相応しいものにしようと検討を重ねました。当初は50回を回顧する記念誌を発行しようとの意見もありました。でもこれは日本アシラム連盟の60周年の働きに委ねるほうが妥当であるとい



うことになり、関東アシラムとしては、①これまでの歩みをパネルとして展示すること、②50年を振り返ってDVDを作製、上映することに決定しました。

助言者の検討でも、多々考えられました。横山義孝師としました。これは内部講師というのではなく、現在、日本クリスチャン・アシラム連盟理事長として、また、スタンレー・ジョーンズ師の来日よ、アシラムが開催された草創期を知るものとして、最も相応しい助

言者と確信したゆえでした。

展示パネルと、DVD作製のため小委員会が組織されました。記録に残る正確なものにしたいとの願いを持って、パネルの写真選びや、連盟との関係で入り組んだ、関東アシラムとしての第1回開催を2013年と確認する等の作業が成されました。しかし、実務的には技術に長けた川村秀夫兄弟に大部分を負う事となりました。それでも、現段階としては、満足できるパネルとDVDができたと思います。パネルは期間中会場に展示し、DVDはファミリーアワーで上映しました。パネルは今後、願いがあれば貸し出しをします。また、DVDは参加者にもプレゼントされました。

50回の主題は「主に自らをゆだねよ」と題して、横山師は「スタンレー・ジョーンズ師が提唱されたアシラムの祈りの運動を、その基本になる信仰の賜物を維持しつつ、次の50年に向かって継承してゆくために、み言葉に学び、恵みを頂きました」と語られた。そして贖いの総主権者として「イエスは主である」。「イエスは主である」とは、言が肉体となることである。これがキリスト教信仰の中心の中心であると語られたスタンレーのことが引用された。だから「イエスが主である」故に、主に自らを委ねよ、と勧められ

た。

参加者41名の素晴らしい、記念すべき第50回関東アシラムとなりました。

アシラム等予告

●日本クリスチャンアシラム連盟 第20回定期理事会

とき 13年6月20日(木)〜21日(金)
ところ 日本ホーリネス池の上教会

会

●第51回関東アシラム

とき 13年9月16日(月)〜18日(水)
ところ 山崎製パン箱根山荘
助言者 島隆三師

▼新刊図書紹介

「信仰の眼で読み解く絵画」(II)

岡山 敦彦 著

一三〇〇E いのちのことば社

問合せは、大分恵みキリスト教会

岡山牧師迄

(097-1522-2768)

〒一八一〇〇一一 三鷹市井口3-15-6
池の上キリスト教会内
日本クリスチャン・アシラム連盟
振替口座 東京〇一〇〇一四五五八